

主な活動の紹介

○小中連携

- ・中学校教員が小学校に出向き、出前授業を実施しました。(理科・図工・体育・音楽・英語など)
- ・6年生が中学校を訪問して、オープンキャンパス(授業参観・部活紹介など)に参加したり、中学校体育祭での6年生種目に参加したりしました。
- ・児童生徒の情報交換を細やかに行う小中連絡会や、小・中教職員合同研修会を開催しました。

○キャリア教育を基盤とする連携

- ・ねらいを「あこがれづくり」と「自分づくり」として明確化・共有化しました。
- ・「あこがれの広がり」(小学校)・・・働く人とのかかわり・様々な立場の人とのかかわり・子ども相互のかかわりなど、人との多様なかかわりを整理・明確化し、その充実を図りました。
- ・「あこがれの深まり」(中学校)・・・「より現実的な生き方の探索」をねらい、**職業講話・職場体験等において、「働くことの素晴らしさ」だけでなく、「働くことの厳しさ」も学ぶことができるよう、「やまぐち教育応援団」登録の事業所等にもご協力いただき、講話内容や体験内容を、中学校と各事業所等とが共通理解して取り組みました。**

○地域とのかかわりの広がり

- ・子どもが、「地域の人から学ぶ」「地域の人とともに学ぶ」「地域の人へ学びを発信する」「地域のために活動する」など、地域との「多様なかかわり方」をする活動に取り組みました。
- ・小学校では、縦割り班(全学年で構成した54の小集団)での「ふれあいウォークラリー」を実施しました。各班それぞれで校区内を歩きながら「働く人へのインタビュー」「史跡等に関するクイズ」「地域の自然を活用したゲーム」など、地域とのかかわりを深めるチャレンジ課題に取り組みました。当日の運営だけでなく、コースや課題の設定において、学校と地域との連携を生かしました。
- ・中学校では、生徒会が中心となって、JRC(青少年赤十字)活動としての地域清掃を毎月行いました。休日にボランティアでの参加を呼びかけると、毎回数十名が集まり、地域のゴミ拾いや落ち葉清掃などを行いました。



働く人へのインタビュー

成果と課題

出前授業で小学生は、近い未来に中学生として学ぶ姿を想像しながら意欲的に難問に取り組むことができました。

オープンキャンパスでは、小学生は、先輩のたくましさを感じ取ることができましたし、中学生は、誇らしさと同時に緊張感を味わうことができました。

教職員は、合同研修会や小中連絡会などを通して、同じ児童・生徒を育てているという共同意識が高まり、長いスパンでの指導の必要性を改めて感じ取ることができました。

さらに、ねらいを「あこがれづくり」と「自分づくり」に明確化・共有化したことで、9年間を通して小・中学校が連携してキャリア教育に取り組む基盤を整えることができました。

小学校では、「ふれあいウォークラリー」で、子どもたちが地域に出かけていき、お店や事業所、幼稚園・消防団等の方にインタビューをする中で、その方々の生き方や人間性にふれ、「あこがれ」をもつことができました。

中学校では、職場体験学習等を通して、働くことの素晴らしさや厳しさを学び、体験の様子をまとめる中で、地域で働く方々への「あこがれ」の気持ちを深めることができました。

このような学習を通して、児童生徒は、今まで以上に白石地域に愛着をもつようになってきています。今後は、地域コーディネーターを有効に活用し、小中連携をさらに進めながら、小学生が中学生の姿に「あこがれ」をもち、中学生は地域の大人に「あこがれ」をもつなど、「あこがれ」の輪が広がっていく取組を、更に充実させていく必要があります。

今後の取組

今後は、小学校と中学校の学校運営協議会を合同で開催したり、白石小学校おやじの会を発展させて、白石小・中おやじの会を組織したりするなど、小学校・中学校でそれぞれが様々な取り組んでいる教育活動を、共通理解し、共同実践していく必要があります。そのために、小・中学校の教育活動を見直し、連携をより強化していきたいと思えます。また、地域コーディネーターと学校運営協議会との連携強化も課題の一つとしてとらえ、日々の実践を積み上げたいと思えます。